

**～VEC創立月にあたって～**

VEC創立42周年にあたってVECが財団法人に移行後、今年で42年になるそうです。

当時私は未だ若干35歳、まだベンチャーという言葉さえ知らないとき、VEC「研究開発型企業育成センター」の役割として本田技研の本田宗一郎さんや、三菱総研の牧野昇先生も、「日本もこれから研究開発型の新しい企業を育てていかなければいけない」といわれ、通商産業省(現経済産業省)も引き込み、中小企業も研究開発をもっと活発に行い、新しい商品を開発しなければ、海外企業に後れを取るとの危機意識から、中小企業を対象に、研究開発費の債務保証制度ができました。

私の会社も当時、風洞などの試験装置を製造していました。その研究の中で、風速計をたくさん風の流れの中に装着し、風の流れ分布を一度に計測できるような風速計が必要と、その開発資金として6千万円の債務保証を申請しました。

当時、風速計といえば、白金の細線に電圧をかけ、風により奪われた熱量を計測し、風速を推理する熱線式風速計でした。

欠陥は流れがちょうど細線に垂直に当たればいいが、斜めに当たると熱の奪われ方が変わり、誤差になってしまう。その為に、先の丸いセンサが必要とのことで半導体のゲルマニウムの単結晶を使い、熱特性のばらつきが少ないセンサを開発し、沢山並べてそれぞれの各部の風速強度を測れば、流れ全体の解明が可能というアイデアです。

その債務保証を認めるかどうかの審査会の時、牧野先生は、「半導体はそんなに均一なものではないよ」と言われた。私は当時自信があったので、「半導体は温度が上がると比抵抗は有る値に収束するのをご存じないのかな？」と高をくくっていた。

しかしこの時は本田宗一郎さんの鶴の一言で決まった。

「この人は一生懸命だから上手く行くんじゃないの？」

その一言で、わが社に対する債務保証が決定しました。

でもさすが、牧野昇先生。おっしゃる通りバラつきが多く、11年間ほんとに苦労した。でも今では解決し、センサの製造会社、トニック株式会社としてセンサの販売をしています。

銀行は技術のことがわからないので、第三者のお墨付きで、その後の資金繰りはとってもスムーズに行きました。

現在のVECは研究開発型企業育成センターの名称が財団に変わった名前です。VECも積極的にベンチャーを育成できるシステムができるといいですね。

現在のVECはご存知の通り、ベンチャー白書やベンチャーの交流会を中心に、調査や、統計の仕事をしています。

関西を中心にやっている交流会は最近参加人数も年々増えてきていて、今では50人を超える時もあります。やはり、できた商品を広く販売するには、ネットワークが必要です。ベンチャーが人を介して、製品の特長を世に広めることです。飛び込みで対象企業に売込みに行ってもなかなか相手にしてくれません。自社製品の応援団をVEC交流会で作ってください。出来るだけお役に立てたいと思っています。

本田工業株式会社 会長
一財) VEC理事 関西支部長
本田 英行

ZENに興味を持ったスティーブ・ジョブズと稲盛和夫

ジョブズは当時のヒッピー世代の影響を受けてインドを放浪したり東洋の神秘や禅に大いに興味を示していた。1975年曹洞宗師家の知野弘文老師が主宰されていたサンフランシスコ郊外のハイク禅堂に19歳の変った青年が参禅に現れたが、これが後の大実業家ジョブズで、彼の禅の師匠との邂逅であった。

その後彼は「知野老師との出会いに深く感動し、なるべく長い時間を彼と過ごすようになっていた」と夜中に夫人に追い出されるまで老師のもとにいたそうである。

彼は老師の教えに深く傾倒し永平寺へ行って出家も考えたが「事業の世界で仕事をしつつ、スピリチュアルな世界とつながりを保つことが可能なことから、出家はやめた方がよい」「ここにはないものは永平寺にいてもない」と言われ出家を断念した。彼が36歳で結婚するときの司式を知野老師に依頼したり、知野老師の家族をジョブズのセカンドハウスに留守番と管理をかねて住んでもらっていた。しかし知野老師が2002年スイスで惜しくも不慮の事故でなくなりましたが、その知野老師の葬儀の司式をしたのが、秋葉玄吾老師(当時曹洞宗北米総監)である。その時に自分の死期が近いと感じたジョブズは人を通して、「自分の葬式も同様に秋葉老師にお願いしたい」と言われそれが実施された。私はたまたま知野、秋葉両老師には親炙に浴してきたが、ジョブズのあまり知られない不思議な日本とのご縁を感じる。

稲盛氏も13歳の時に肺浸潤を患っていたときに谷口雅春の『生命の実相』をむさぶるように読んだといわれ、幼少期からスピリチュアルなマインドが備わっていた。京セラを始めて知人から西片擔雪老師(元妙心寺派管長)され、老師に指導を受けることになった。創業25年目の時に製品が薬事法違反で1か月の操業停止を受け悩んでいた時に、老師に相談すると「災難に逢う時は過去に作った業が消えることで、それは喜ぶべきことだ。白隠禪師も積みし無量の罪滅ぶと言っている」と思いもよらないことを言われ、深く悟ることがあった。

かねてからの考えにより、65歳になった時に思い切って老師に相談し得度を受けることにした。それで胃癌の術後にかかわらず大接心という厳しい修行を受け、衣に網代笠、素足で草履という雲水姿で信徒の家を廻る托鉢も行い、老師から「大和」と言う僧名も授与された。

彼はこの時の托鉢で年配の婦人から「大変でしょうパンでも買いなさいと百円玉を恵んでくれた」ことが忘れられないと言っている。

日米を代表する2人の大実業家が、その成功の陰にZENに傾倒していたことは、ビジネスパーソンにとっていかに精神的支柱が大事かを示している。

太成学院大学 経営学部長 教授 釣島平三郎

～株式会社アトラステクノサービス&阪南大学石井ゼミとの 産学連携による製品開発への取り組み～

阪南大学あべのハルカスキャンパスに於いて

5月26日、ろ過装置・真空フライヤーの機械メーカーの代表としてご活躍されている株式会社アトラステクノサービスの鯛かおる氏が、阪南大学経済学部石井ゼミ2・3年生(36名)に「ものづくりで感動を」をテーマに講演されました。

今年で20周年を迎えられる同社は、「ものづくり一筋」でその確固たる地歩を築かれ、現在農工商連携による6次産業化事業にも積極的に参画されて取り組まれ、循環型農業の保全・振興を理念に地産地消による野菜を活用した真空フライチップスでマーケットを創造・拡大されて注目を浴びています。

一方、連携先の石井ゼミでは、毎年東南アジアを中心に、特にタイ・プーケットにおいて、海外フィールドワークを絡めたボランティア活動として、①地球温暖化対策の一環としてのマングローブ植樹、②スマトラ沖地震の津波で被災した孤児達との多彩な交流プログラムを実施されておられます。

今回は、大学生には「ものづくり」中小企業の実態や役割をはじめ、真空フライヤー技術による資源有効利用による6次産業化の取り組みと意義への理解を深めながら、「マングローブは食べられるのか?」をメインテーマに、鯛代表の指導と支援のもとで、マングローブの葉や野菜・熱帯果実(マンゴーやパパイヤ等)の調達からチップス製作実習のプロセスに取り組む予定にしております。なお、製作されたチップスは、鯛代表の温かい配慮で、9月にボランティア活動で訪問する孤児院の子供たちにプレゼント(寄贈)することになっております。第一段階は、タイに行く9月初旬を目標に、それまでの期間、8月に実施される工場での実地研修や各種の勉強会など、石井ゼミの学生さん達にとっても、暑くて熱い夏になることでしょう。



関西支部 事務局 濱本妙子

「お茶って、めっちゃ 楽しい!～お茶から広がる世界」

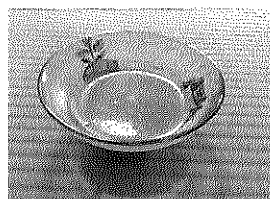
“一碗(いちわん)からピースフルネス(平和)を” 茶道裏千家十五代お家元は、ご自身が戦争中、海軍にいらした経験からこの言葉を胸にお茶を通して世界が平和になりますように!と戦後50年以上、国内のみならず、世界にお茶を広めてこられました。私もお茶を通して“てんこもりからピースフルネスを”の思いで、茶道の楽しさ、魅力をお伝えできればと思います。さて、お茶は色々な作法があり、面倒だ・・と思われがちです。確かにたかがお茶をいただくだけなのに様々な作法があります。お茶が運ばれる、まず右隣の上座の方に「お相伴(しょうばん)させていただきます」左隣の連客の方に「お先に頂戴致します」お茶を点てて下さったご亭主に「お点前、頂戴致します」とご挨拶し“お茶がいただける!”いえ、まだなのです。

お茶碗を左手にのせ右手をそえて少しおしいただき、お茶碗を手前に回してやっとおいしいお茶がいただけます。この作法はお茶室ではすべての人は平等で相互を尊重し合いお茶を楽しむことだ「相客(あいきゃく)に心せよ」という利休の教えによります。せっかくのお茶を楽しむ機会お互い気持ち良く時間を過ごすためのマナーと考えれば、自然に言葉をかけ合えるでしょう。いただく前にお茶碗を少しおしいただくのは“感謝”を表しお茶碗を回すのはお茶碗の正面(絵などが描かれてるところ)を敬い、遠慮して少し回したところからいただく“謙虚さ”の表れです。ビジネスや日常の場面でもお互いを思い、声をかけあうことでスムーズに気持ちよく、事が進むことがあるかと思えます。お茶でお稽古したことは、日常生活に活かせることが多々あるように思えます。

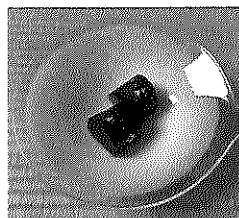
さて、「夏は涼しく、冬は暖かに」とお茶は季節感を大切にします。日本の四季の季節の移ろいを楽しみ、自然の恵みには感謝です。暑い夏のお茶室では目にも涼しげな趣向となります。この季節の茶室での「おじく」は『流水無間断(りゅうすいかんだんなし)』などさらさらと流れる水を感じさせるもの多くなります。「おじく」は禅語ですので様々な解釈がありますが“流れる水のように目標に向かってたゆまぬ努力を続けましょう”という意味になりますでしょうか。お茶碗は平らなものやガラスのものが使われ、お菓子はのどごしのよい水菓子が多くなります。暑いときに熱いものをいただくのもすっきりしますが、たまには点てたお茶に氷をおとしてオンザロックでいただくのもおいしいです。お抹茶はカテキンやビタミンCなどが多く含まれていて、夏バテの予防になります。

ぜひお茶を飲む機会を作ってください暑い夏を楽しみませんか?!

竹内 広実(裏千家 茶名:竹内 宗広)



夏はガラスの器で涼やかに!



銘は「流れ星」金粉で星を表現
お菓子は、お稽古で一緒のお茶の友人 武隈典子さん製

～VEC関西より～

- ・交流会も会社も一緒に、一度始めると中々やめられない。また、やめてはいけない!長く続けるとそれだけネットワークがおおきくなり、売上なり人脈なりが増える。私も喜寿を迎えましたので、いずれはバトンタッチもあり得ます。変化は広がりです。引続きVECの発展に尽力して行きたいと思っています。(本田)
- ・大好きな桃の季節になったので、いつものように和歌山まで遠出して来ました。今年は気温の変化が大きかったようで出荷が少し遅れたようでしたが・・・桃販売の特設会場があり、一家族で何箱も買われていきます。(安くて美味しいので!)作った方の名前が記されており相手が見える安心感。四季それぞれの作物が味わえる日本ってやっぱりいいですね。(藤本)
- ・長い間、どうされているのかな?と気にはなってはおりながら私も日々の生活に流され時間が経つほど行動になかなか起こせない方がおられます。

した。しかしあるきっかけで勇気をもって連絡してみると現在もお元気で以前のままの会話ができ嬉しさと同時に、今後の私の勉強のために書籍や資料など送って頂ける約束と温かいエールまで頂戴しました。何故もっと早く行動をしなかったんだろうと自分を恥じました。今さらですが人とのつながりの大切さをより以上に痛感しました。(濱本)

- ・VECは創立以来この7月で42年目を迎え、ベンチャー支援をさらに推進して行きたいと思っています。海外経験の豊富な釣島教授、学生の為に行動で示されている石井教授、茶道からの学びについて竹内様から熱いメッセージを頂きました。(澤村)

<交流会の予定>
8月は例年どおりございません。

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293